

(科目コード : 2000220004JJ)

【改訂】第19版(2015-03-03)

【科目】哲学

【科目分類】 一般科目 【選択・必修の別】 必修 【学期・単位数】 後期・1単位

【対象学科・専攻】 電子情報 4年

【担当教員】 齋藤 和義

【授業目標】

哲学とは何であるかを理解し、自分自身の生き方を倫理的に考えていくための基礎を学ぶものであることを理解できる。

西洋哲学の歴史を学ぶことを通して、哲学の基礎的な概念を理解し、自らも哲学の主要な主題について主体的に考えることができる。

近代科学を基礎付けた近代哲学の学びを通して、人間の認識について理解し、科学と哲学の違いについても理解することができる。

近代民主主義の根本概念でもある「自由」や「正義」にかかわる主題を哲学の問題として扱い、現代社会の諸課題と関連付けて考察することができる。

【教育方針・授業概要】

- ・本科目の総授業時間数は22.5時間である。
- ・西洋哲学に学びつつ、そもそも「哲学とは何か」の探求を通して、こちらから問いかけ、君たち自身が哲学するような動機付けになるようにしていきたい。いろいろな疑問・質問を提起してくれることを期待する。
- ・西洋哲学の2つの流れ、即ち観念論と唯物論について、代表的な哲学者を例に理解を進める。
- ・人間の認識能力について、経験主義と合理主義の対比や、デカルト、カントの思想を例に考察をする。
- ・「自由」と「正義」の意味を哲学の歴史の中に学び、現代における「自由」と「正義」の政治上の問題・課題などを哲学を基礎として考察する。
- ・哲学とその他の諸科学との違いについても考える。

【教科書・教材・参考書等】

教材：『テオーリア 最新倫理資料集』：第一学習社：3年生「倫理」で使用したもの

参考書として薦めたい本

(古典)

・プラトン『ソクラテスの弁明』などソクラテス対話篇(岩波文庫、新潮文庫)

・デカルト『方法序説』(岩波文庫)

(哲学の入門書)

・竹田青嗣『哲学ってなんだ』(岩波ジュニア新書)

・岩田靖夫『いま哲学とは何か』(岩波新書)

・石川文康『カント入門』(ちくま新書)

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で行なう。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：40%、期末試験：40%、レポート等：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	哲学という学問の意義、目的、方法を理解する。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート等10%の割合で評価する。
2	哲学がこれまで対象としてきた主要な問題について学ぶ。	50 %	中間試験20%、期末試験20%、レポート等10%の割合で評価する。

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(哲学)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	イントロダクション 哲学とは何か	・授業の方針、哲学を学ぶということ、哲学者ソクラテス		
第2回	ギリシア哲学()	・アリストテレスの倫理思想、幸福論		
第3回	ギリシア哲学()	・プラトンとアリストテレスの政治思想、正義論		
第4回	近代哲学()	・認識の哲学、デカルトの懐疑と合理主義		
第5回	近代哲学()	・ロック、ヒュームの経験主義的認識論		
第6回	ドイツ観念論()	・カントの批判哲学		
第7回	ドイツ観念論()	・ヘーゲルの弁証法、自由論		
第8回	中間試験			
第9回	自由論()	・カントの道徳論、自由の意味	小論文	
第10回	自由論()	・ミルの自由論、宗教とリベラリズム		
第11回	正義論()	・功利主義の正義論		
第12回	正義論()	・ロールズの正義論、政治哲学、正義の意味	レポート	
第13回	現代思想()	・ハイデガーの思想		
第14回	現代思想()	・レヴィナスの思想		
第15回	現代思想()	・国際関係と正義		